

教育研究業績書

2025年05月07日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：館林 麻有

研究分野	研究内容のキーワード	
看護教育学	新人教育、プリセプター、看護過程	
学位	最終学歴	
修士(看護学)	大阪大学大学院 医学研究科 保健学専攻	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 事例における術後観察演習の実践	2023年9月15日	武庫川女子大学看護学部実習科目「成人看護学(急性期)実習」(専門科目、3・4年次配当、必修3単位)で学内で事例を用いた術後観察演習を行った。術直後の患者が置かれる心身の状況も学生に学んでもらうためモデル人形を用いた演習ではなく、患者役は学生が担うこととした。そのため授業準備として観察する学生が患者をリアルに想像しながら演習が実施できるよう、心電図モニター、点滴、ドレーン、創部、硬膜外麻酔、尿道留置カテーテルなど、患者役の学生が装着できる物品の作成を行った。また授業実施のためのオリエンテーション資料の作成、オリエンテーションの実施、また事前課題(術後観察に必要な技術・知識)を学生に提示した。演習では学生が全身観察の一連の手技が学べるよう、観察項目が適格であるか、観察が患者の状態に合わせて優先順位を考えながら順序よくおこなえているか、また手術する患者の置かれる心身の状況を理解できているか、学生に指導を行った。
2. 成人看護学Ⅱでの「救急時の看護演習(BLS演習)」	2023年4月11日	演習科目「成人看護学Ⅱ」において分野の他の教員とともに中心となって実施した。まず、演習前に学生に医療用BLSの手順を知ってもらうため、事前課題として「自身が医療用BLSを行うための手順」をまとめてくるよう学生に指示を行った。演習では、まず教員により一次救命処置のデモンストレーションを行い、その後学生に2人1組のペアになり一時救命処置の演習をおこなってもらった。演習を通して学生にはBLSアルゴリズムを理解し、胸骨圧迫やAEDの使用について留意点を理解しながら正しく実施することができた。
3. 「初期演習Ⅱ」でのキャリア開発に関する講義	2023年1月11日	看護学部1年生を対象とした演習科目「初期演習Ⅱ」で多職種(保健師・助産師)の経験を持つ教員と共にスライドを用いて講義を行った。講義では、自身が看護学生として大学生活をどのように過ごしたのか、実習や就職、また就職後も看護師としてどのような経験をしたのかのわかりやすくスライドにまとめて学生に伝える事で、看護師としてのキャリア開発を学生にイメージしてもらい、自身のキャリアに関心をもってもらうことができた。
4. 学部生に対する看護過程演習の指導	2022年4月1日～現在	「成人看護学Ⅱ」担当者の一人として演習指導に携わった。学生の特性に合わせて、資料の提示や問いかけを工夫しながら指導に努めた。
5. 学部生に対する成人期の対象に必要とされる技術演習の指導	2019年5月～2022年2月	血糖測定やインスリン注射など糖尿病看護に必要とされる技術演習、心電図測定など急変時に必要とされる演習において、TAとして指導を行った。
6. 学部生に対する臨地実習指導	2019年5月～2022年2月	成人看護学実習において、大阪大学附属病院における実習またはオンライン実習において、TAとして学生指導を行っていた。担当教員と連携しながら、学生の特性に合わせて指導を行えるように工夫をし、患者の個性を追求した看護展開の支援を行った。
2 作成した教科書、教材		
1. 統合看護学実習(急性期)における記録用紙の作成	2023年9月4日	実習科目「統合看護学実習(急性期)」において、実習記録用紙の作成を行った。2023年度では実習内容に変

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
2. 実習オリエンテーション資料の作成	2022年5月～現在	更（統合看護学実習での患者受け持ち実習の開始）があったことに加え、前年度の課題を考慮しながら記録用紙の改訂を行った。
3. 実習施設への打ち合わせ資料作成	2022年5月～現在	武庫川女子大学看護学部実習科目「成人看護学Ⅱ（急性期）」（専門科目、3年次配当、必修3単位）のオリエンテーションにおいて円滑な実習進行のために資料作成を行った。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 武庫川女子大学 広報委員	2023年4月1日	武庫川女子大学看護学部のオープンキャンパスの運営サポートや、看護学部のブログ・インスタグラムの更新を行った。
2. 武庫川女子大学 オープンキャンパス	2022年8月11日2022年9月25日	武庫川女子大学のオープンキャンパスで看護学生体験イベント（校生へAEDの使い方の説明と実施、救急蘇生法の目的の説明）を企画した。企画するにあたり、イベントに従事する教員や学生アルバイトへの運用方法を資料で提示し、説明を行った。参加した学生や親御様にも実際AEDに触ってもらい、救命処置をやってもらうことで、救命処置の知識を得てもらうことができた。
3. 武庫川女子大学 看護学部 ジャーナル委員	2022年4月1日	武庫川女子大学 看護学部ジャーナル刊行のサポート業務をおこなった。
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 保健師免許	2013年4月～現在	
2. 看護師免許	2013年4月～現在	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 吹田保健所 地域保健課(感染症グループ)	2021年4月～2022年3月	吹田保健所にある地域保健課(感染症グループ)にて保健師として活動を行った。新型コロナ感染の流行期であったため、コロナ罹患者の疫学調査や健康観察、医療機関への入院の調整、職場・学校・保育園・幼稚園で感染者が増大した場合の集団調査に従事した。
2. 大阪府箕面特別支援学校での非常勤講師(学校看護師)	2019年9月18日～2021年3月31日	大阪府箕面支援学校にて非常勤講師として学校看護師業務に携わっていた。医療的ケアが必要である小学生～高校生の重症心身障がい児が授業を含めた学校生活を安全に送れるよう、必要な医療処置(吸引・経管栄養、ブジー、導尿等)を実施した。また、意思疎通が困難が児に対して全身の観察を注意深く行い、また気管切開の児も多いため切開部のトラブルも起きていないか注意を払い、異常の早期発見や呼吸状態の悪化予防に努めていた。
3. 訪問入浴での看護師業務	2018年9月～2018年2月	(株)リトルバードにて看護師として訪問入浴される利用者様の健康管理に携わっていた。
4. 独立行政法人地域医療推進機構 JCHO大阪病院	2013年4月1日～2016年3月31日	消化器・呼吸器・乳腺内分泌外科にて1年、消化器外科にて2年間、病棟看護師として勤務した。患者様は手術を受けられる患者に加え、化学療法や大腸内視鏡検査を受けられる患者、またターミナル期の患者もおられた。内科的治療から急性期のケア、ターミナルケアと幅広い看護に携わることができた。
4 その他		
1. クリニカルスキルラボプロジェクトへの参加	2022年4月～現在	武庫川女子大学 クリニカルスキルラボプロジェクト

職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
4 その他				
2. 武庫川女子大学 看護学部 ジャーナル委員	2022年4月～現在	に参加している。 看護学ジャーナルの編集委員として編集に関わる業務に携わっている。		
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 新人看護師の看護過程展開を支援するプリセプターの経験	単	2021年3月	大阪大学大学院医学系研究科博士前期課程 修士論文	前年度初めてプリセプターを経験した臨床経験4年目～6年目の看護師を対象に半構造化個別面接を実施した。面接内容を逐語録としてデータとし、KJ法を用いて個別分析を行った後、得られた最終ラベル全42枚を質的帰納的に全体分析を実施し、18のカテゴリーを抽出し、[新人に行った支援に関する経験]、[周囲に協力を得ることに関する経験]、[支援を通して得た気づきや学びに関する経験]の3つの大カテゴリーに分類された。
3 学術論文				
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. プリセプター看護師に対する支援とその在り方に関する課題：文献レビュー	共	2023年12月	日本看護科学学会第43回学術集会 (山口)	土井智生、館林麻有、清水安子 目的：国内外の先行研究により報告されているプリセプター支援の実際と支援の課題やニーズについて明らかにすること。 方法：医中誌Web、MEDLINE、CINAHL Plusを用いて2014年から2023年に公表されたプリセプターへの支援についての文献を選定した。 結果：30文献を分析した結果、プリセプターに対する支援では【プリセプターに求められる能力の事前教育】、【プリセプターとしての成長を促す支援】、【管理者によるプリセプターに適した人材の選定】、【プリセプターを全体で支える体制作り】が抽出された。 課題やニーズでは<役割遂行の障壁>、<部署内の思いやりある指導環境>、<プリセプターの学習ニーズ>、<役割に対する報酬>、<プリセプターに対する支援体制の不十分さ>が抽出された。 結論：プリセプターに求められる新人指導を行うための能力の醸成につながる支援に加え、役割遂行上の課題解決を目指したプリセプター支援を検討していく必要がある。
2. 新人看護師の看護過程展開を支援するプリセプターの経験		2023年8月18日	日本看護教育学会第33回学術集会	館林麻有、清水安子、高橋慧 前年度、初めてプリセプターを経験した臨床経験4年目～6年目の看護師を対象に半構造化個別面接を実施した。質問内容は「新人教育体制の概要」「新人が看護過程を展開するにあたり、プリセプターとして新人に行う関わり」「新人に看護過程展開を指導するにあたり必要であった支援」などで、面接内容は逐語録としてデータとした。分析は、質的統合法（KJ法）を用いて分析を行った。分析により7つのシンボルマークが抽出された。新人看護師の看護展開を支援するプリセプターは、【新人支援の限界：実践経験・支援スキル不足と時間的制約下での努力】【両面ある周囲の協力：得られた学びや自身と協力して不足や負担への不満】を感じている状況の中で【新人への精神的配慮：プライマリーとしての責任や負担感を共有して支える】事にいつも配慮しながら、【新人主体の支援：新人自身が看護過程展開を経験し、考えることを促す】と【患者主体の支援：個性のある看護過程展開のための問いかけや振り返り】を行っており、その上で【目指す看護を実践につなぐ支援：大切にしたい看護を共有し、新人の患者との関わりを見守る】をしている。その結果、【支援経験による成果：新人の成長の実感と自身の看護感の醸成】を経験していることが明らかとなった。
3. 総合分析を2つの方法で試みて感じた各々	単	2021年3月20日	看護質的統合法 (KJ法)	総合分析を2つの方法で試みて感じた各々の特徴について発表した。質的帰納的分析は分析時間が短く、簡易な言葉でどのような内容が

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
の特徴			研究会第13回 研究集会	あるのか知ることができる事がメリットであるが、カテゴリー化の際に各最終ラベルの内容が抽象化されてしまい、看護過程の支援経験として特徴的なものが見えにくいことが難しい点であった。一方KJ法は、最終ラベルでは抽象度あがっているものの、個別分析のエッセンスをきちんと取り入れることが出来たと感じ、また細分図を作ることで、抽象化された経験の具体を表現出来ることがメリットと感じた。しかし分析を行うには時間が必要であり、初学者が一人で分析を行うことは困難であった。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2022年9月17日～2022年9月18日	第27回 日本糖尿病教育・看護学学術集会 協力委員
2. 2022年3月1日	まちの保健室 健康相談業務
3. 2019年3月	文化看護学会 第11回 学術集会 実行委員